

## 会 長 ご 挨拶

早稲田大学フィルハーモニー管弦楽団会長 水島朝穂（法学学術院教授）

新しい年をいかがお過ごしでしょうか。

本日は、お忙しいなか、ニューイヤー・コンサートにお越しいただき、誠にありがとうございました。大学主催のニューイヤー・コンサートは今回が初めてです。その名誉ある機会を当楽団に与えいただき、心から感謝申し上げます。

当楽団は、1979年12月に誕生しました。昨年12月27日の第61回定期演奏会で、「創立30周年」を祝ったばかりです。大学公認サークル「学生の会」である当楽団には音楽を愛する他大学の学生も参加しており、校歌にある「仰ぐは同じき理想の光」のもと、団員一同、心を一つにして練習を重ねてきました。

年2回の定期演奏会をはじめ、早稲田祭などの学内イベント、室内楽演奏会などさまざまな活動を行っています。当楽団はまた、新宿区立落合第六小学校での音楽鑑賞教室を毎年行い、地域の子どもたちとの音楽交流活動も重視してきました。とにかく音楽が好きという学生たちの一途なエネルギーが有機的に結びついて、当楽団のサウンドをつくっています。私も会長になって5年、学生らしい若さと純粋さにはいつも励まされています。形や権威ではなく、音楽を愛する純粋な心こそが大切だと改めて思います。

本学には芸術学部はありませんが、各学部・研究科には、勉学の合間に音楽に打ち込む学生がたくさんおり、音楽系サークルも多数あります。今後、大学が、こうした早稲田の「音楽力」を発掘し、活躍のチャンスを与えていくことができれば、素晴らしいことだと思います。このニューイヤー・コンサートをきっかけにして、「早稲田音楽」の活性化につながることを期待したいと思います。

2010年は、国連が定めた「文化の和解のための国際年」（International Year for the Rapprochement of Cultures）でもあります。いまでも世界には紛争がたえません。しかし、音楽は国境を越え、人々の心を癒してくれます。2010年、音楽のもつそうした力と可能性にも期待したいものです。

終わりに、企画・実施にあたった文化推進部の皆さまはじめ、多くの関係者の皆さまに、会長として心からお礼申し上げます。

それでは、新春のひとときを、早稲フィルのウィンナワルツの響きでお楽しみください。本日はどうもありがとうございました。